

令和 8 年 2 月 25 日提出

浜松市議会
議長 高林 修 様



<陳情書及び陳情署名簿提出団体>
中央区「高齢者元気はつらつ教室」の
継続を求める市民の会

代表者 内藤 士郎

連絡先

電話

中央区「高齢者元気はつらつ教室」の継続を求める陳情書

浜松市政発展のためにご尽力を賜り、心より敬意と感謝を申し上げます。

【陳情の主旨】

- 中央区「高齢者元気はつらつ教室」の終了方針(令和 8 年度末終了)は撤回し、令和 9 年度以降も継続して実施してください。

【陳情の理由】

この度、浜松市は、中央区「高齢者元気はつらつ教室」を令和 8 年度末で終了する旨、全利用者と家族及び受託法人宛に通知しました。(令和 7 年 3 月発出)

突然の終了通知を受けた利用者と家族及び教室従事者からは、戸惑いと不安・失望、怒りの声相次いで上がっています。「毎週教室でみんなと出会い、交流する楽しみをなぜ奪うのか」「介護のお世話にならないために頑張っている利用者の望みを取りあげないでください」「教室は、一週間で最も楽しい一日です」等々、その声は多岐にわたり、今日に至っております。

高齢者福祉課は、「利用者の高齢化が進み、目的とミスマッチしている」「転倒事故が多発している」「専門職員の配置がなく、事故対応力がない」等を教室終了の主な理由にあげていますが、いずれも終了の根拠に乏しく、利用者・家族から納得する声は聞かれず、合意に至ってはおりません。

介護予防に貢献してきた「元気はつらつ教室」は、拡充することはあっても、終了・廃止は高齢者の望むところではなく、「介護予防施策に逆行する」との声が主流であることは明らかです。

私たちは、「元気はつらつ教室」の発足以来、この事業を高く評価してきました。今回の終了方針を受けて、止む無く民間サービス施設に移行した元利用者からは、「機械的な機能回復訓練を繰り返すだけで、入所者との会話も少なく、友だちもできない。はつらつ教室は楽しかった。もう一度戻りたい。教室は止めたらだめです。」と涙を浮かべて署名にサインした方もありました。

行政は、移行された方々の無念の思いを重く受け止めなくてはならないと思います。それ故に私たちは、浜松市が高齢者福祉行政のさらなる向上を図るために、公的責任を全うすることを切望し、ここに陳情署名 4,417 筆を添えて陳情するに至りました。

尚、陳情署名の大多数は、七つの教室に参加する利用者及びご家族からの署名に加えて、各施設の対象地域の住民の皆さまのご協力を得て寄せられている署名であることを申し添えます。

本議会の慎重審議を心から期待し、本「陳情書」の採択を強く要請するものです。

以上